

県外派遣報告書

審判員名（報告者）	箱石 拓也	所 属	U18 カテゴリー
大会名	令和6年度 第76回全日本大学バスケットボール選手権大会		
期 間	2024年 12月3日 及び 5日		
会 場	横浜武道館		
ス ケ ジ ュ ー ル			
期 日	内 容	場 所	
月 日	審判会議なし		
12月 3日	富山大学 VS 仙台大学	横浜武道館	
12月 5日	早稲田大学 VS 白鷗大学	横浜武道館	
審判会議、研修会 講義内容			
担当試合①			
期 日	12月3日（火） リーグ戦		
対戦カード	富山大学 vs 仙台大学		
ク ル ー	CC：草野 伸明氏 U1：箱石 拓也 U2：今村 隼輔氏		
ミーティング内容	審判主任：なし		
<p>▶ゲーム前のPGC</p> <p>チーム戦術の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青：仙台大学について 身長は高くないがスクリーンを多用して、オープンプレイヤーにショット打たせることを徹底してやってくる。 ・白：富山大学について 11番と13番の2人で得点を積み上げてくると思う。得点するプレイヤーが絞れる可能性がある。お互いにフルコートプレスと-halfコートマンツーマンまたはゾーンディフェンスを仕掛けてくる。 <p>キープレイヤーの確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青：66と41 ・白：11と13 <p>外国籍の選手は両チームいないので、国籍のミスマッチはなし。よりベーシックな見方で。</p> <p>プレイコーリングの確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手の使い方や体の寄せについてはゲーム序盤から obvious なものに対してしっかりとコールしていくことで、コントロールを効かせつつ、スムーズに、タフに展開させていく。 ・ブロック OR チャージ についてプライマリーが判定してレポートまで持っていきましょう。ブラージはしないこと。 ・スクリーンは仙台が多用してくるので、イリーガルスクリーンには序盤に笛を入れてテンポセットしたいところですが、ディフェンスの影響まで見てからコールすることで、よりメッセージ性が強くなるので意識していきましょう。 ・UF についてはご自身のプライマリーでの判断を大切にしつつ、アングルの取り方やその時の状況に応じて、場合によってはクルーで寄ってコミュニケーションをしっかりと取りつつ、進めていければ問題ないです。特にアップグレード/ダウングレードの際にははっきりコミュニケーションしていきましょう。 <p>メカニクスの確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・T シューターが沢山いるので、AOSと3OR2を確認できるポジションアジャストをより意識して。 ・C トランジション中に起こりうるコンタクトからNF OR UF ケースについてしっかり見極め。HDRについて任せすぎず、Cのプライマリーから判定できるものが沢山あるはずなので、cadence whistleの準備を忘れずに。C primaryのHDRもあることを忘れずに。 ・L ペイントで起きることへの気づきを増やしていきましょう。（HDRも含め）ローテーションのタイミングは、状況にもよりますが落ち着いてスムーズに対応する。 ・SCは15秒表示で8秒成立 			

▶ゲーム後のミーティング

・ゲームの序盤から両者ともに気持ちが入っていたので、コンタクトは至る所で起きていた印象。ゲームには影響ないようにコントロールしていきたい気持ちとタフなゲーム展開をさせたい気持ちを自身の中で、整理をつけながら判定に集中するよう心がけた。ゲーム自体も接戦だったためゲームの波が高い時間帯が複数回あったため、クレーンでのコミュニケーションを絶やさないう意識した。全体的には落ち着いて判定できていたと思う。課題は、クレーンとしての判定基準を伝えていけるよう、メカニクスとプレコーリングを徹底していきたい。3Q途中でUFコールしたケースはNFに留めておいて良かったと自身で振り返って反省した。また、ゲーム序盤のトラベリングの整理をしていきたい。

担当試合②

期 日	12月5日(木) インカレトーナメント ベスト16 決め
対戦カード	白鷗大学(白) vs 早稲田大学(赤)
クレーン	CC: 茂泉圭治氏(神奈川) U1: 箱石拓也氏(埼玉) U2: 中野嗣久氏(東京)
ミーティング内容	審判主任:

▶ゲーム前のPGC

キープレイヤーの確認

・赤: 0と77 ・白: 88と35

白の白鷗大学は外国籍の選手がいるので、国籍のミスマッチはあり。ポストアップ、ボックスアウト、リバウンドについてしっかり確認。

プレコーリングの確認

・手の使い方や体の寄せについてはゲーム序盤から obvious なものに対してしっかりとコールしていくことで、コントロールを効かせつつ、スムーズに、タフに展開させていく。

・UFについてはご自身のプライマリーでの判断を大切にしつつ、アングルの取り方やその時の状況に応じて、場合によってはクレーンで寄ってコミュニケーションをしっかり取りつつ、進めていければ問題ないです。特にアップグレード/ダウングレードの際にははっきりコミュニケーションしていきましょう。

メカニクスの確認

・T 白88のドライブに対してのポジションアジャストを丁寧に。赤はAOSと3OR2を確認できるポジションアジャストをより意識。

・C トランジション中に起こりうるコンタクトからNF OR UF ケースについてしっかり見極め。白のドライブからのブルアップに対してのポジションアジャストとアングルを確保できるよう強く意識。リバウンド争いにも積極的に参加していくことでよりC TO C のポジションをはっきりしていく。

・L 外国籍に対する日本人の守り方を常に意識して、ローテーション。ペイントで起きることへの気づきを増やしていきましょう。

(HDRも含め) ローテーションのタイミングは、状況にもよりますが落ち着いてスムーズに対応する。

▶ゲーム後のミーティング

大きなトラブルなく終わった。前半と後半でのファールの記録の付け方が少しうまくいかなかった。前半早稲田が1Q2Qともにチームファールオーバー。白鷗は2個。後半に白鷗に対して記録をつけることを意識したが、1試合通しての公平性には大きく外れた形となってしまった。ゲーム展開から紐解いて、勝ち上がっていくチームへ間違ったプレイへのメッセージが必要だったと反省した。

全体の感想

はじめに、全日本バスケットボール学生連盟及び東京都バスケットボール協会の皆様には細部にわたるまで御配慮頂き大変お世話になりました。また、今大会へ派遣して下さいました埼玉県協会、日頃活動を共にしている県内審判員の皆様へ、この場をお借りして御礼申し上げます。担当した2試合で感じたことは、選手とベンチがやろうとしていることをコート上でどれだけ表現させてあげられるかが、自身の課題と感じた。近年、バスケットボールは大きく変化をしてくれている中で、レフェリーが選手やコーチの求めていることに対して、どれだけメッセージを伝えられるかが問われている気がする。判定やコミュニケーションだけでなく、一つ一つの動きや所作もメッセージを込めてやっていく必要があると思った。オンザコートでは、苦しいことの連続だが、粘り強く取り組み、バスケットボールの価値を高められるような判定にチャレンジしていきたい。